

# 作業所学会分科会 記録者用 事例・活動報告書

記録者名： 速水 千秋  
 (事業所) 牧之原市第2こづつみ作業所  
 役 職： 施設長

発表者名： 犬塚 朱美  
 (事業所) ともの家  
 役 職： 管理者・サービス管理責任者

## 【発表事業所の概要】

事業区分	就労継続支援B型・生活介護
定 員	30人 在籍36人
活動内容	パン・ラスク・クッキー・パウンド ケーキの製造・店舗経営・畑 ネジの箱詰め 洗濯委託業務

## 【支援・活動対象者の概要】

性 別	
年 齢	
障 害 の 種 別 ・ 特 性	

## 【支援・活動事例の概要】

目 標 ・ 目 的	利用者支援の基本に立ち返る ～「強度行動障害支援者養成研修」を研究してみた～ <b>【キーワード：本人の困り感に気づけるか コミュニケーション 意思確認】</b> 「強度行動障害支援者養成研修」を研究することで、支援者側から見て原因のわからない行動がさまざまな要因によって作られた障害であることを知り、困りごとを理解する方法や有効な支援方法を学ぶ。
計 画 ・ 手 段	2019年度の強度行動障害支援者研修（基礎研修・実践研修）を受講 「仲間がたちが安心して生き生きと生活するためにはどんな支援が望ましいのだろうか？」 日々の疑問を どのように考えて 実際の支援に結び付けていけばよいのか。 研修に参加した内容を 改めて振り返り考えてみた。
内 容 ・ 経 過	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 強度行動障害とは「困った人」ではなく「困っている人」と解釈する。</li> <li>・ 強度行動障害になりやすい人～重度の知的障害と自閉症の特徴を合わせ持った人</li> <li>・ その人の障害特性と障害特性に対する配慮が不十分な環境との相互作用で起こる。</li> <li>・ 一人ひとり違う障害特性を理解し、特性に配慮した環境作りをする。</li> <li>・ 支援において重要な事              行動障害は様々な要因によってつくられた『二次的な障害』と理解              支援を組み立てる視点は『行動障害をつくらないようにすること』</li> </ul>
結 果 ・ 課 題	〈結果〉 強度行動障害に特化した研修ではあるが、日々の支援の中で十分に考えるべき要素がある。 強度行動障害を起こさないため アセスメントを丁寧に行い、日頃から仲間を正しく理解して 個々にあった作業・活動・生活を組み立て、小さな変化を記録し、彼らの意思を確認し、職員 はチームとして根拠のある支援をしていくことが必要。 〈支援者として目指すこと〉 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仲間のやろうとしていることに気が付ける目線を持つ</li> <li>・ 仲間の視点で困りごとを理解し、どうしたらよいか推測し考え、喜びを共感できる心を持つ</li> <li>・ 仲間の自分らしく生きる力を尊重し、支援できるチームの一員である</li> </ul> <u>仲間の視点に立ち、困らないようにする。 思いを知り、思いを実現する。</u>

# 作業所学会分科会 記録者用 事例・活動報告書

記録者名： 速水 千秋  
 (事業所) 牧之原市第2こづつみ作業所  
 役 職： 施設長

発表者名： 北条 麻里  
 (事業所) ともの家  
 役 職： 生活支援員

## 【発表事業所の概要】

事業区分	就労継続支援B型・生活介護
定 員	30人 在籍36人
活動内容	パン・ラスク・クッキー・パウンド ケーキの製造・店舗経営・畑 ネジの箱詰め 洗濯委託業務

## 【支援・活動対象者の概要】

性 別	女性
年 齢	37歳
障 害 の 種 別 ・ 特 性	自閉症 (療育手帳A・区分5) 言葉はエコラリア (問いかけはほぼオウム返し) 5人家族、父の送迎にて通勤 内向的・もの静か

## 【支援・活動事例の概要】

目標・目的	利用者支援の基本に立ち返り「強度行動障害支援者養成研修」を研究してみた ～困った事、問題がないからこそ～ 【キーワード：コミュニケーション】 「何をしている時が楽しいのかな?」「仕事は楽しくやれているかな?好きかな?」 「やりたくない、って感情はないのかな?」Nさんのことをもっともっと知りたい! 障害特性、苦手な音と場所、視覚的に苦手なものや強みはわかるけど…。
計画・手段	Nさんをもっと知るために研修で学んだことを試してみる。 <u>冰山モデルで考える</u> 水面下の要因～障害特性、苦手な音と場所、視覚的に苦手なものや強み 冰山として見えている部分～困った時に「困った!」と伝えられない →苦手なことをリフレーミングで考えてみる。
内容・経過	冰山として見えている課題「自分の意思を伝えられない」 やる・やらない、2拓の <u>カードの提示</u> ～カードを指さし、文字をそのまま読む 外出先でメニューの <u>写真を提示</u> ～写っている物の名前を言う →カードを読むだけとなり、Nさんの意思は確認できなかった →環境を整えることで不安が軽減され、安心して過ごすことができるように支援する
結果・課題	〈結果〉 Nさんの困りごとが伝わった瞬間 体調が悪かった時、問いかけに対し 首の後ろを指さしたり、立ち上がろうとしないなど 発信をする場面があった! 〈課題〉 必ず本人の意思や思いはある。その思いに気付けるか、思いをくめるかがとても重要で 最も難しい。ともの家が安心できる心地よい場所であれば、心がほぐれてお互いの気持ちが 寄り添う場面があるとの思いで関わってきた。 普段 困った事 問題がないからこそ、Nさんとのコミュニケーションや意思決定支援の 手立てや具体策に悩みながら 心許せる相手になれるように関わっていきたい。

# 作業所学会分科会 記録者用 事例・活動報告書

記録者名： 速水 千秋

発表者名： 佐々木 憂子

(事業所) 牧之原市第2こづつみ作業所

(事業所) ワークショップくるみ

役 職： 施設長

役 職： 主任生活支援員

## 【発表事業所の概要】

事業区分	就労継続支援B型
定 員	20人 在籍22人
活動内容	フラワーたわし製造販売・遠州綿 紬商品製造販売・資源回収 箱折加工・紙製品加工・ビニール 製品加工・梱包作業・バリ取り作 業、植栽管理業務

## 【支援・活動対象者の概要】

性 別	女性
年 齢	40代
障 害 の 種 別 ・ 特 性	知的障害・細かいことによく気が 付く・明るく元気ハツラツ 話す事は好きだが 思いや考えが 上手く伝わらないと困ったりイラ イラすることがある

## 【支援・活動事例の概要】

目 標 ・ 目 的	意思決定支援 ～人それぞれの世界観を知る～ 【キーワード：コミュニケーション】 人それぞれ違う世界観があり、知る方法もそれぞれ。 何通りもの方法があることを感じている中で、Sさんの訴えや思いを知る方法を検討し 解消・解決へつなげる。
計 画 ・ 手 段	Sさんとの「お話し会」を設定 ① Sさんの伝えたい思いを持っている状態で向き合い、話す場所や環境を整える ② 訴え、単語のキーワードを文字で表現し紙に書き込む ③ 感情、行動、人物、物などを絵で表現し書きこむ
内 容 ・ 経 過	・ 話は人に聞かれないため2人だけの空間作りをし 座る位置も配慮する。 ・ ②③をもとに、訴えたい背景や内容を順序立て整頓して共有する。 ・ 文字、絵や記号などSさんが使えるアイテムを一緒に考えて作り、それを使って これからどうしたいのか話し合い、解決・解消へとつなげる。 (作業の量の記録の仕方をカウンターからカードに変える・困りごとを聞き取り 絵や文字で 記録しながら整理する・日報を自身で書くための作業カードを作成する 等)
結 果 ・ 課 題	〈結果〉 最初は面談だったSさんとのお話し会を始めた2018年当初は共有できなかったことも あった。徐々に積極的になり、今では自分からお話し会の日時・場所を提案。 表現方法も変化し、少しずつ自分で決めることが当たり前になっている。 〈課題〉 Sさんと向き合って「人を知る」と言うことが 大切だと思った。 Sさんを否定しない、受容することで「これでいいのだ」と自信につながる。 Sさんの困りごとや思いや考えを「お話し会」で共有し、解消・解決し、最終的には 自分で決めることができるようになっていく。 このように人それぞれの世界観をそれぞれの方法で知ることが大切。

## 【意見交換】

(事例からテーマを抽出して)

- ・「困った人」ではなく「困っている人」
- ・「困った人」と捉えてしまっていた。相手を大切に思う気持ちを大事にしたい。
- ・強度行動障害の利用者さんがいるが 混乱なく活動に取り組めるようになり、散歩もできるようになった。
- ・人を叩く利用者さんがいて、言葉で表せないため「おはよう」も叩く。カードを作ってみようかと思った。
- ・強度行動障害（他害、物の破壊）の利用者さんがいる。コミュニケーションができない事が原因の一つ。刺激を減らす取り組みをしているが難しい。
- ・表面的な行動だけに着目しないようにと改めて思った。
- ・本人が一番願っていることを、アセスメントし もう少し深く探ってみようと思った。
- ・強度行動障害養成研修の内容がわかりやすくまとまっている。研修を振り返る機会になっている。
- ・「ズボン 触っていい？」と足を触りに行ってしまう利用者さんの支援方法に苦慮している。
  - 何で触るのだろうか…？／そういう場面を作らないことができるか
  - 他に置き換えられないか（触った感覚が近いもの）
  - 支援方法等について職員間で手順書を作り、共有する

## 【まとめ】

(テーマに対する分科会としての結論や方向性)

根拠にあるのは 「その人を大切に思う気持ち」

「わからなさ」の原因を 障害のせいにはしない。  
支援者の都合で決めない。

～「強度行動障害養成研修」を研究してみた！～

環境や人によって起きる行動障害。  
人と関わるために役に立つツール。

～困った事、問題がないからこそ～

何も表面化していない人に対して 「このままでいいのか」「これで楽しいのかな」という  
支援者の思いから、研修で学んだことをいかして 掘り起こして 意思確認に取り組んだ。

～人それぞれの世界観を知る～

本人からの訴えが乏しい、わかり辛い人の支援事例

世界観の中に飛び込む→飛びこまれても拒まれない人になる。(職員がセンス・力を身につける)